

人とともに 地域とともに 島根大学

*shimadai



2025.04 Vol.60



特集

島根大学とグローバル化

グローバルな視点で、未来を切り拓く

人々人 たち

撮影地／松江城

*shimadai



Vol.60

2025年4月発行 編集・発行／島根大学
〒690-8504 松江市西川津町1060 TEL 0852-32-6603 FAX 0852-32-6630 <https://www.shimane-u.ac.jp/>

島根大学の 公式SNSのご紹介

島根大学が発信している
公式SNSアカウントをご紹介します。
大学をもっと身近に感じていただける
内容が盛りだくさんです。
ぜひ、ご覧ください！

大学の
最新情報を
発信！！



島根大学の「今」を広く皆さんにお知らせしています。

ここから
Check!



島根大学の最新ニュースや日々の
できごとについて呟いています。

ここから
Check!



大学の広報活動をサポートする
「学生広報サポーター」が、学生目
線で大学の魅力を紹介しています。

ここから
Check!



高校生・受験生・地域の方々に役
立つ情報を定期的にお届けします。

友達追加！



リアルな大学生活を、学生や教員
の声を通じて発信しています。

ここから
Check!



島大をもっと
深く知るなら…

Web
サイトへ！



Shimane University Introducing the official SNS



学生に海外留学をすすめる理由

「大学のグローバル化とは、大学が知の拠点であることを活かし、率先してそうした活動をスタートさせ、地域に広めていくこと。大学はその実践を通して、世界の持続可能性に対する責任を果たしていかねれば」と話すのは、島根大学でグローバル化推進を担当する片岡副学長。「専門的な学びを深めていくと同時に、持続可能な世界をつくるために、さまざまな立場の人々と一緒に考え、行動していく人を育てたい」との思いでグローバル教育を推進。「どの分野を専攻しても、いかに自然環境を守っていくか、いかに不平等をなくしていくか、いかに平和を実現するか、いかに人々の幸せな暮らしを実現するかといったユニバーサルな問題に取り組むことを学んでほしい」と言います。

世界の持続可能性といったユニバーサルな問題に関わるという点では、大学で行う教育はすべてグローバル教育。その中でも島根大学が特に力を入れている

知らない世界を知ると
今よりも自由になれる



副学長
(グローバル化推進担当)
片岡 佳美

のが、学生の海外留学・研修です。情報化が進み、いつでも手元のスマートフォンやPCで世界中の出来事が検索できる時代になったとはいえ、実際に自分の目で見て知ることがやはり重要です。それは、グローバルな問題に取り組む動機づけとなる点でも、また、その人にとつての「世界」を広げ人生を豊かにする点でも意義深いのです。「最近では日本人学生の外国離れや内向き志向がよく指摘されますし、島根大学の学生にも、そうした傾向があるように思うこともあります。円安や物価高で気軽に海外へ出掛けにくくなっていることはあるでしょうが、それでも多くの学生に海外経験をしてほしいと思いますね。」長期留学はもとより数週間の短期海外研修であっても、渡航前と比較し語学力や行動力などが格段に上がり、大きく成長した学生を何人も見てきた片岡副学長は「帰国後さまざまな価値観や考えをもつ人々と積極的に関わり視野を広げていくようになった学生を見ると、海外経験は明らかにコミュニケーション力とか社会人を高めるものだ実感します」と言います。

「知らない世界を新たに知ること、今までよりも自由になるということ。そして、新たに知った世界の人たちとつながり友情を育む学生が増えることは、世界が抱えるさまざまな問題の解決にとって、そして平和の実現にとって大切なこと。」そう熱く語る片岡副学長。島根大学は、さまざまな国の大学での交換留学制度や海外研修プログラムを活用し、世界へと飛び出す学生を応援しています。



島根大学では現在、28カ国99の大学・機関と協定を締結。

多くの協定校と交換留学制度を設けており、
世界中の大学で授業を受けることができます。

交換留学をはじめ、短期研修などを合わせると

2023年度に留学や研修で海外に派遣した学生は288人。

グローバルな視点で、専門の学問に取り組む人材を育てています。

<特集1> 島根大学とグローバル化…… 01

グローバルな視点で、未来を切り拓く

<特集2> 鼎談…… 05

独創性豊かな人材が、島根の未来を変えてゆく

SHIMADAI Edge…… 09

島根大学の研究・地域貢献事業紹介

材料エネルギー学部 講師 戸井田さやか

活躍する卒業生…… 11

SHIMADAI NEWS…… 13

SUPPORTERS VOICE…… 15

Let's 広報サポーター…… 16

島根大学支援基金より…… 17

読者プレゼント…… 17



他国を知って自国を理解 国際交流の魅力

カナダ・ニピッシング大学
法文学部言語文化学科
金崎琴乃さん

高校生の頃から「大学で留学したい」と思っていて、大学で留学エージェントの説明会などにも参加して比較・検討し、自分の希望条件に合っていた交換留学制度を選びました。留学先で文化人類学や宗教学、ビジネス基礎などを幅広く学びましたが、特に印象的だったのは先住民族研究です。北米大陸の歴史を踏まえて「多文化主義とは何なのか」を自分の中で再定義することができたと感じています。何となくカナダが好きでカナダに行きたいと思っていた留学前に比べ、カナダがどのような国なのか、文化的側面から知ることができました。また、英語しか使えない環境や、各国から来っていた留学生を通して感じた考え方・文化の違い、大自然の中での生活など勉強以外での学びも多かったです。残り1年の在学期間は、学内の国際交流に積極的に参加するつもりです。そして、卒業後はもう少し海外経験を積み、英語や他言語を使う職業に就きたいと思っています。特に観光業に関心を持つようになったため、地元・大分県や京都などの観光地で働きたいと考えています。



大学の学生団体が主催のヒンドゥー教お祝いごとのイベント「Diwali」へ参加。
(右から2番目が金崎さん)

広く学び、深く知り 新たな創造を掻き立てる

総合理工学部 機械・電気電子工学科から
自然科学研究科 理工学専攻へ進学
ムハマド スハイル ピン アハマド シャリフッディンさん

私が島根大学を選んだ理由は、そのユニークな教育内容にあります。そのひとつが機械・電気・電子工学を統合したプログラムです。多方面から総合的に学ぶことで多くの気づきがありました。また、国内外の学会に参加させてもらいました。学会では、卓越した研究を間近で学び、有名な研究機関の教授や学生と直接交流することで「将来、自分がどのように成長していきたいか、どんな研究者になりたいか」と、自分自身としっかり向き合う貴重な機会を得ることができました。さらに、いくつかの国際交流プログラムにも積極的に参加し、日本の子どもたちに英語を教えたり、自国ならではの文化を大学の仲間や地域の皆さんに紹介したりするなど、多くの異文化交流を図ることもできました。現在は、半導体工学の信頼されるエキスパートを目指し、『JASM』で装置エンジニアをしています。半導体分野を深く追求しながら、留学を通じて培ったコミュニケーション能力や対人スキル、適応力を実社会で活かして、グローバルな環境のなかで貢献できる人材になりたいです。



大学の友人と大山登山へ。素晴らしい景色を楽しみました。
(右から3番目がスハイルさん)

留学制度について

交換留学(派遣)

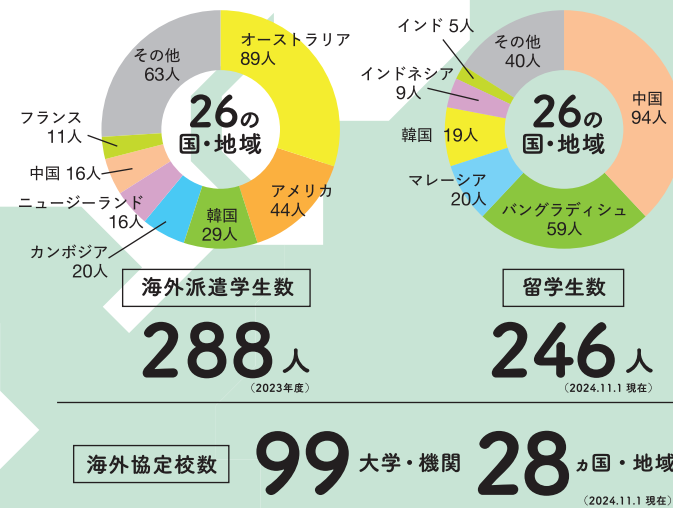
アメリカ、カナダ、フランス、ドイツ、韓国、中国などにある島根大学の海外協定校に島根大学での選考試験を経て、およそ半年または1年間留学する制度です。海外の大学に在学し、その大学の学生と一緒に授業を受けることができます。派遣先の学年層によって留学開始の時期は異なりますが、島根大学へ通常どおり授業料を納付することで、派遣先への授業料は免除となります。休学をせず学したまま留学するため、単位やスケジュール調整次第で修業年限内に卒業できます。

短期海外研修

授業の一環として、夏休み等の長期休暇時期にアメリカ、中国、韓国などでの留学プログラムを多数実施しています。これらの研修は、目的や希望に沿って選べる盛りだくさんの内容になっています。様々な海外経験を通して自らの視野を広げることができ、長期留学へのステップにもなるでしょう。要件を満たせば、単位が付与されたり、大学から奨学金(5万円程度)が支給されるプログラムもあります。

★5月に留学説明会を開催する予定です。
国際センターHPで案内しますので
チェックしてください！

国際センターHPは
こちらから▶



中国での研修で兵馬俑を見る

留学WEEK・

グローバル月間

大学全体のグローバル化を推進するため、6月に「留学WEEK」、11月に「グローバル月間」と題し、国際交流に関係する各種イベントを集中的に実施しています。

昨年11月に実施したグローバル月間では、留学生との交流会、英語スピーチコンテスト、日本の伝統的な遊びを学ぶワークショップ、外国の文化や歴史を学ぶパネル展、留学体験報告会などが行われ、延べ1500人を超える学生・教職員が参加しました。



グローバルcommonsでの交流
(松江キャンパス)



国際交流スペース e クリニック
(出雲キャンパス)

インドとの交流について

島根大学では、海外の大学や機関とのパートナーシップを積極的に推進しており、特に近年は、経済成長が目覚ましいインドとの連携に力を入れています。

インドはITをはじめ工学系の研究が盛んで、本学では、さくらサイエンスプログラム(外国から優秀な若手人材を招き、国際交流を推進する事業)や中海・宍道湖・大山圏域市長会との連携事業による短期留学生の受け入れ、インドの大学との共同研究などが活発に行われています。

昨年度はインドのペロール工科大学と交流協定を締結し、インドとの交流協定は計7校となりました。今後、活発な研究活動や更なる交流の発展を目指していきます。



インドの伝統的なストリートアート



島根大と京都芸術大が包括連携協定

島根大学と京都芸術大学は、令和6年8月に包括連携協定を締結しました。総合大学として島根大学がもつ技術力と、京都芸術大学の強みである芸術分野を融合させ、学生教育や地域貢献に力を注いでいくことを目的としています。島根大学で行われた締結式では、京都芸術大学の吉川学長（※役職名は当時）が「島根大学との共同プロジェクトを進展させ、社会実装に繋げたい」と期待を込め、本学の大谷学長は「両者の緊密な連携のもと、地域の将来を支えていく意欲的かつ優秀な人材を育成したい」と意欲を述べました。

きっかけでした。その時に「このフィギュアを使っている時は、心がどう動いているかを共同研究できればおもしろいですよね」という話になり、その後、箱庭療法が、島根大学が行っている先鋭研究のひとつ「ジオサイコロジ」とリンクすることにも気づいたんです。

大谷 ジオサイコロジというのはジオロジ（地理学）とサイコロジ（心理学）を融合させた新しい概念で、人間の精神も自然が生み出したものであるという前提のもと、地形や歴史を調査することで人間の精神活動のきわめて深い場所の構造を探ろうというもの。古事記の舞台である出雲地方はそれが色濃く出ていると考えられており、出雲の聖地的な構造を、人のこころの「古層」とも深く関係している芸術表現を絡めて明らかにしていけたらおもしろそうだと思います。ほかにも幅広い分野で共同研究が進められそうでしたし、それならば大学同士で連携しようということで包括連携を希望しました。

吉川 島根大学さんから包括連携のお話をいただいたて、私はすぐに「これは実現したい！」と思いました。芸術というところかアーティストの自己満足でやっているように受け取られることも多いんですが、実際は違います。もっと社会に開かれていて、人間の *Well-being* につながる要素がたくさんあります。ただ、芸術大学に勤める私たちも芸術の様々な要素のもつ社会への影響力をきちんと検証したことがありません。たつたので、良い機会をいただいたなと思っています。

大谷 今回の連携にはもうひとつ狙いがあった。それは *STEAM*（*Science*（科学）、*Technology*（技術）、*Engineering*（工学）、*Mathematics*（数学）の頭文字をとった *STEM*（STEM）教育が重視されてきました。しかし、いくら知識を身につけても、それを活かす自由な発想力や想像力がなければ不十分だということで、*Art*（芸術）を追加した *STEAM* 教育の重要性が認識されるようになりました。簡単にいうと、文理の枠を超えて総合的に学ぶことで、実社会での問題解決力を育成しようということです。島根大学は中規模大学ですがバランスの取れた学部構成で、これまでも文理融合を目指した取り組みを行ってきましたが、まだまだ足りていないという気持ちがありました。そこでぜひ、京都芸術大学のお力を借りたいと思ったんです。たとえば島根大学で新しい航空機やロケットの部品・材料などの「もの創り」を研究する計画（※）では、「こういう原子モデルで作れば、こういう特性・機能が創造できる」というシミュレーションをコンピュータで行い、試作品を3Dプリンターで作って、実際に良いものができるか、性能などを検証するんですね。ですが「美しさ」とか「心地よさ」とか、理屈だけでは説明できない要素も、もの創りにおいては重要なわけです。京都芸術大学の学生や教員との交流のなかで、島根大学の学生に新しい視点加わったり、物事の本質を見出す力が備わったりすることを大いに期待しています。

吉川 本を読んでわかることもたくさんありますけど、それよりもやはり人と人が直接コミュニケーションをとって「そんなことに関心があるんだ」「そんな見方もあるんだ」と気づいたり、人間への理解を深めたりすることのほうが大事なんですよね。私もこの連携が、両大学の学生にとって、視野を広げるきっかけになれば良いなと思っています。今年度から、両大学の学生や教授が交わる授業やプロジェクトをスタートできるように準備を進めているところです。



※詳細は広報しまだい59号特集「島根大学と島根創生」をご覧ください。

独創性豊かな人材が、 島根の未来を変えてゆく。



京都芸術大学 瓜生山キャンパス 松麟館屋上にて（京都市街を背景に）

島根大学と京都芸術大学が、包括連携協定を締結しました。両学はまず、本学の「こころとそだちの相談センター」が企画するメンタルヘルスケアアプリの開発で協力連携。その後もさまざまな分野で共同プロジェクトを展開する予定です。この連携のねらいを、島根大学長、京都芸術大前学長、そして連携のきっかけを作った島根大学こころとそだちの相談センター特任教授による鼎談形式でお伝えします。

総合大学の強み × 芸術要素で 困難な時代を生き抜く人材を育成

大谷島根大学長（以下大谷） 包括連携を結ぶことになったきっかけは、吉川先生と岩宮先生との交流でした。

岩宮特任教授（以下岩宮） はい。吉川先生はかつて、京都大学の「こころの未来研究センター（現：人と社会の未来研究院）」のセンター長を務めておられて、私も島根大学で「こころとそだちの相談センター」のセンター長を務めており、女性のセンター長同士ということで親しくさせていただきました。

吉川京都芸術大学特別教授（前学長）（以下吉川） 私は認知心理学、岩宮先生は臨床心理学で専門は違うのですが、考え方がすごく合って。それで、「こころの未来研究センター」で開かれる一般市民向けの公開セミナーへの登壇を岩宮先生にお願いするようになりました。

岩宮 吉川先生にはセンターの一般公開の記念講演をしていただくなど交流が続いていたなか、2024年に島根大学主催で「日本箱庭療法学会第37回大会」を開催することになったんです。「箱庭療法」とは、砂の入った箱にさまざまなフィギュアを置いていき、自由に表現することで心の内を映し出す心理療法のこと。私がその大会長を務めることになり、フィギュア制作で京都芸術大学とコラボできないかと吉川先生に相談したのが最初の



島根大学
こころとそだちの
相談センター 特任教授
岩宮 恵子

領域にゲームやアートを活かせないかと考えています。さきほど岩宮先生がおっしゃっていたように、ゲームにはその人の生活に溶け込めるというメリットがあるので、糖尿病や高血圧といった生活習慣病の改善に一役買うのではと思うんです。あとは病院に行った時のケア、つまり病院で過ごす際の心理的ストレスを低減することも期待できそうです。

吉川 そこで効果を発揮するのが、本学で長年取り組んできた「ホスピタルアート」ですね。鑑賞するためのアート作品ではなく、病院という空間を心地よくするために壁面を彩るアートで、私は「脇役のアート」と呼んでいます。そうしたアートがあることで、患者さんだけではなくお医者さんたちや看護師さんたちの心も癒されると伺っています。実は私も、心を癒やすアートの力を実感したことがありました。私が赴任したのはコロナ禍のときだったのですが、授業もほとんどオンラインになっていた時期に、学生たちが三密を避けながら懸命に卒業制作に取り組んでいました。教職員はその様子を毎日見るわけですが、少しずつ作品が完成に向かっていく様子を横で見ているだけで、自分の心が癒やされる感覚を味わいました。人間にとってアートは必要だ！と確信をもった経験でした。

大谷 実は島根大学でも、教育学部の学生が病院にホスピタ



京都芸術大学
特別教授(前学長)
吉川 左紀子

持続可能な世界を実現するために 今こそアートの力が必要

大谷 自然科学って、どんな良いものに向かって進む原理になっているんですよ。AIが人知を超えるなんてことも言われていますよね。ですがこのまま尖り続けていけば、どこかで限界を迎えてしまう。島根県では、昔から素材産業が一大産業で、島根大学ももの創りに力を入れています。たとえば新しい素材を開発するのも尖る話です。しかし、ただ新しい素材を創ればよいというのではなく、持続可能性ということを考えながら、バランスを取らなければなりません。そういった時に、アートの力が必要となるのです。私はアートの根源は「世の中とは？」「人間とは？」「生命とは？」と、想いを巡らすことにあると思っています。「生きるって何だろう？」と考えることは、夢ある未来のために絶対に必要なことだと感じています。

吉川 人間の知恵は、脳のなかで最も進化したと言われる大脳皮質が司っていますが、その内側に感情・感性を司る

部分があるんです。今、そのふたつのバランスを取るのがものすごく難しい。なぜかというと、社会が複雑化し、尖ったものがどんどん出来てしまったから。それらはみんな、人間の知恵が生み出したものなのですけれどね。大谷学長がおっしゃったように、知恵と感情・感性のバランスをどう取るか、それらをどう組み合わせる良い社会を作っていくかが、現代社会に問われていると思います。そして感情・感性の部分を探求していくことが、アートの役割なのだろうと思います。

セルフケアの重要性を感じゲームの要素を取り入れたアプリを共同開発

大谷 プロジェクトのひとつとして、「こころとそだちの相談センター」と京都芸術大学のゲーム開発部門とで連携し、メンタルヘルスのセルフケアアプリを開発する研究を進めています。特徴的なのは、ゲーミフィケーション（ゲームの要素を取り入れ、利用者のモチベーションを高める手法）を導入しようとしているところです。

岩宮 メンタルの不調を感じていても、相談に行くのはハードルが高いと感じている方、そもそも心理療法を受けようという発想すらない方が本当に多くいらっしゃるんですね。そこで、セルフケアをもっと身近なものにして、毎日の自分の状態をゲーム感覚でチェックできるようにすれば有意義なのではと考えました。みんなスマホは毎日見るし、ゲームをされている方も多いですよ。生活習慣自体を変えずに、その人の生活に入り込むことができるゲームは、セルフケアを浸透させるのにすごく有効なツールなんです。

吉川 うちのキャラクターデザイン学科に、ゲーミフィ

ルアートを施す取り組みを行っているんです。この取り組みをもっと広めていくためにも、ホスピタルアートの効果を科学的に立証できればと考えています。その論文を学会で発表し、モデルケースとして全国に向けて、さらには世界に向けて発信することができれば、自治体がそこに予算をつけるといったムーブメントにも繋がるのではと期待しています。

岩宮 ぜひ、そうしたいですね。「こころとそだちの相談センター」には、大学施設の相談数としては日本一の、年間7000ケースもの相談があるんです。それは、患者さんの話をじっくり聞き、箱庭療法で何かを作ってもらって、表現してもらうことを地道にやってきた成果だと考えています。つまり私たちも、表現することの治癒力をすごく信頼しています。芸術の力と臨床心理の治癒力がどう関係しているのか、京都芸術大学と一緒に研究として深めていけたらと思っています。

吉川 ありがとうございます。島根県には何度かお邪魔していますが、歴史、伝統行事、産業、観光資源などたくさんありますが、それが感じを受けました。もっと良くするにはどうすれば良いかというアイデアが、すでに私たちのなかにたくさん浮かんでいます。この素晴らしい地域を芸術の力でさらに力強く、さらに魅力あふれる場所にできることを楽しみにしています。



京都芸術大学
京都市左京区北白川瓜生山町2-116
<https://www.kyoto-art.ac.jp/>

島根大学 学長
大谷 浩



ケーションのアプローチで医療研修の学習ツールを制作した先生がいます。たとえばゲームのシナリオは岩宮先生のチームで作成していただいて、実際のゲーム開発の部分を京都芸術大のチームで担当するといったプロジェクトを進めたいと考えています。

岩宮 企業はもちろん、教育現場でも使っていただけるものにしたいです。今、生徒や保護者への対応に一生懸命で自分のストレスに無自覚な先生方が多くいらっしゃるって、そのケアの必要性を強く感じています。約2年後のリリリースを目指しています。

島根県の医療問題に対しても アートの力を積極的に活用していく

大谷 医療の分野とアートをどう繋げるかは、今回の連携のなかでも大きなテーマになりそうです。というのも島根県に限らず、地方の医療は直面する問題も多く、どう今の医療を維持していくかが課題になっています。地域に根差した島根大学としては、地域貢献の一環として、この問題に取り組みむ使命があります。たとえば、これまでは病気になるってから治療するというのがひとつのモデルでしたが、予防の



SHIMADAI Edge

尖った研究だから生まれる最先端

細胞の中へ薬を届ける

材料工学で支える未来の医療

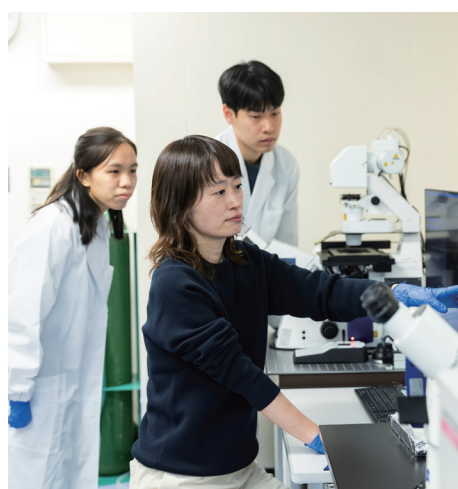


ものづくりには欠かせない材料の研究・開発を行う「材料工学」。島根大学材料エネルギー学部においても、金属、無機材料、有機材料など、さまざまな材料を対象にした研究や開発が行われています。その一つが、生体に直接接触させても安全に使える材料を創り、病気の治療や診断のツールを開発する「バイオマテリアル（生体材料）」。材料工学と聞くと機械や設備の材料をイメージしがちですが、人体に取り入れ健康や病気に対してアプローチしていくバイオマテリアルに関する研究もまた、材料工学の主たる分野なのです。

そのバイオマテリアルを専門とする戸井田講師が長年取り組んでいるのが、薬を体内に必要な場所・量・時間で送り届ける「ドラッグデリバリーシステム」という技術。「より効果的かつ効率的に薬を体内の届けたい部位に送り届ける技術を開発することで病気の治療法の発展に貢献できれば」と、これまで研究を進めてきました。実は、従来の方法で薬を細胞の中に取り込ませたい場合には、薬が細胞内に上手く入らず、そのため十分に作用できないことがあるといいます。この問題を解決することができるといいます。この問題内へのドラッグデリバリーシステムです。2年前、島根大学材料エネルギー学部に着任した戸井田講師は、大学院時代の恩師でもある同学部の森本展行教授との共同研究で、細胞内の目的の場所に届く高分子を用いてミトコンドリアの非常に



細かい構造の可視化に成功しました。現在は、この研究を発展させて、この高分子に目的の薬を修飾することで、薬の効果を高められないかと研究をしている最中。「例えば肝臓がんであれば、抗がん剤を肝臓にだけ、必要量を届けることができるようになる。これによって髪が抜ける、手がしびれるといった副作用を軽減しながら、より高い治療効果を得られるようになる。その可能性を追求しています」。バイオマテリアルに興味を持ったのは、大学1



年生の頃。授業でバイオマテリアルという存在を知った戸井田講師は、元々医学の道を目指していたこともあって、医学と工学の融合に興味を持つように。次第に「人の健康や病気の治療に結びつくものづくりがしたい」と考えるようになり、大学院ではバイオマテリアルを専攻しました。博士号取得後は、海外留学を経て生体材料を開発するには医学の知識も必要との思いから、医学部の研究室の研究員として勤務。民間企業での研究開発職を経て、「大学の研究室や民間企業など、さまざまな環境で研究を行ってきた経験は私の強み。こうした働き方のケースも含めて学生に伝えられるのでは」と島根大学に着任しました。

「自分たちが設計した高分子によって新しい治療法の可能性が広がるかもしれない。患者さんに



貢献できるかもしれない。そう思うと、やりがいは大いです」と戸井田講師。「失敗のほうが多いんですけどね」と苦笑しつつも、これからもがんや神経疾患をはじめとする人の疾患を対象として研究を続けたいと話します。

今年度で3年目となる材料エネルギー学部には、3名のバイオマテリアルを専門とする先生方が在籍しています。「医療に貢献したいと考えた時に、特に女性は医学や薬学の分野を目指す人が多いように思います。私自身もそうでしたが、工学の分野からも医療の進歩を支えることができるんだと知ってもらうことでバイオマテリアル、そして材料工学に興味を持つ人が増えると嬉しいですね」と語る戸井田講師。研究の成果が一人でも多くの患者さんの未来を変えることにつながれば。その思いを胸に日々実験を重ね、材料の力で医療の未来を切り拓く挑戦は、これからも続きます。



GRADUATE OF SHIMANE UNIVERSITY

深めました。大学を選んだ理由も、このような学びを得るためのカリキュラムが充実していたからだそうです。そして進路選択の延長線上で出会ったのが『美保テクノス株式会社』でした。「インターンシップに参加して、幅広い業務内容や建築業界の先進性に触れることができ、大学での学びとやりたいことが結びついたんです。1つのことより、いろいろなものに関わりたいたいと思っていたので自分のやりたかったことも実現できると思いました」。同社は、土木工事、建築、リフォーム、電気工事など幅広い業務を行う一方、企画から一貫して行うPFI事業（※1）や、ICT（※2）・BIM（※3）などにも注力し新しいチャレンジも多く行っています。



初めて担当したのは工場の新設。お客様の意見を反映し図面にするこの難しさ、長期にわたる現場監理の大変さを

実感したそうです。「実用性を重視するお客様にとって、使いやすいさは絶対。そこに加えて付加価値のあるデザインの提案は難しくもあり、やりがいもありました」と、完成したときの喜び、難しさの中にある面白さを教えてくれました。

大切にしているコミュニケーション

大学の最後の2年間はコロナ禍で学校に通えない日々でしたが、4年間での一番の収穫は、多様な考え方ができるようになったことだと足立さんは言います。「大学生になってから色々な視点から物事が考えられるようになりました。それは、サークルやアルバイト先も含め多くの人と関われたからだと思います。コミュニケーションをとることの楽しさも知れたような気がしますし、相手によって分かりやすい言葉に変えて工夫することも学生時代に構築できた能力

です」。サークルの友人とは今でも交流があり楽しい時間を過ごしている足立さん。人との出会いで培われたコミュニケーション力は、チームワークを大切にする職場でも生かされています。「頭の中にあるものをカタチにする仕事だからこそ、聞くことを大切にし、伝わるように話すことを意識してコミュニケーションをとっています」。

決めた選択に後悔しない

だから、選べる道をつくる

今、とても楽しく仕事ができているという背景には「決めた選択に後悔しない」という前向きな信念があります。現在、一級建築士取得に向け勉強をしている理由もまた後悔しないため。「二級建築士の資格ではできないこともあり、資格を取得して、学校やショッピングモールなどの大型の建築にチャレンジしたいです。学んだ環境工学が大規模工事でのように生かせるかも非常に興味があります」と、設計士でありながら研究者のような一面も見せてくれました。1日でも早く、大きな建築プロジェクトを動かせる責任者を目指し、努力は続きます。



美保テクノス株式会社

鳥取県米子市昭和町25

<https://www.miho.co.jp/>

鳥取県西部、鳥根県東部を中心に展開する総合建設会社。地域に貢献し、快適で暮らしやすいまちづくりを目指す。

活躍する卒業生



美保テクノス株式会社 設計部 足立峻一さん

島根大学 総合理工学部建築デザイン学科2022年3月卒業



創る喜びを実感し、目標を持ちながら働く



カタチにすることの難しさ面白さ

入社4年目を迎える足立さんは、『美保テクノス株式会社』で設計士として働いています。設計といっても、図面を描くだけが仕事ではありません。図面を起こすためには、イメージを具体化し誰もが理解できるようにしなければなりませんし、図面が完成したあとにも施工や建物の管理サポートと責任ある仕事が続きます。

島根大学在学中は総合理工学部建築デザイン学科で環境工学を専攻し、人が快適だと思える住空間、採光の取り方、風の流れ方などを学び、環境そのものが人の暮らしを支える建築について理解を



法文学部と日鉄テクノロジー株式会 社連携研究協定を締結

法文学部は、日鉄テクノロジー株式会社と産学連携研究協定を締結し、12月6日に記者会見を行いました。本協定は、法文学部が重点研究領域とする考古学と、国内トップクラスの金属分析技術を持つ日鉄テクノロジーの協力により、青銅器・青銅器文化・金工技術研究の国際的拠点形成を目指すものです。考古学と分析化学を融合し、青銅器生産の実態解明に取り組めます。



法文学部では、岩本崇准教授をプロジェクトリーダーに、平郡達哉准教授、清水邦彦講師、坂川幸祐講師が共同研究に参加。日本列島の弥

生・古墳時代の青銅器生産を解明し、東アジアにおける位置付けを明らかにすることを目指します。さらに研究の強化のため、弥生時代の銅鐸研究の難波洋三氏（奈良文化財研究所 客員研究員）、中国古代鏡研究の岡村秀典氏（黒川古文化研究所 所長）を客員教授として招聘しました。

日鉄テクノロジーは、青銅器の化学分析や材料評価を実施し、客観的データに基づく研究の深化に貢献します。記者会見では、日鉄テクノロジーの江藤学常務執行役員が「当社の技術が学術研究に寄与できることを嬉しく思う」と発言。また、浅田健太郎法文学部長は「文理融合によって、新しい成果が得られることを期待する」と意気込みを語りました。

藤田・吉田研究室がSEMICON アカデミアAward2024で最優秀賞を受賞

自然科学研究科の藤田恭久教授、吉田俊幸准教授の研究室が、世界最大級の半導体国際展示会「SEMICON Japan 2024」のアカデミアAward2024において「最優秀賞」と「SUMCO賞」を受賞しました。



この賞は、半導体産業の未来を担う優れた研究を支援する目的で2022年度に創設され、革新性や市場性、ネットワーク構築力、プレゼンテーション力、



次世代育成などの観点から審査されます。書類選考を経て、8研究室が選ばれ、本研究室は地方大学で唯一2次審査へ進

出しました。展示会ステージでは、藤田教授と大学院生の川合悠介さん、川島佑斗さん、AnikaIslamさんが「酸化亜鉛薄膜ナノ粒子による破壊的イノベーションと社会実装」を発表。塗布型LEDや半導体技術の抗がん剤応用、大学発ベンチャーによる社会実装、国際的な人材育成の取り組みが高く評価されました。

受賞報告会は2025年1月7日に松江キャンパスで開催され、藤田教授は「技術の革新性と人材育成が評価された」と報告。大谷浩学長は「世界的に注目される成果であり、さらなる発展を期待したい」と祝福しました。また、伊藤文彦自然科学研究科長は「藤田研究室は多分野と連携し、新技術を社会実装するモデルケース」と高く評価しました。報告会では研究室メンバーも喜びを共有しました。

加藤大雅さんが今春の 「三十三間堂大の全国大会」で優勝

京都市の三十三間堂で毎年新春に開催される「三十三間堂大の全国大会」新成人男子の部にて、教育学部2年（当時）で弓道部に所属する加藤大雅さんが見事優勝を果たしました。江戸時代に行われた「通し矢」にちなんで行われるこの大会には、毎年弓術に優れた新成人が全国から集まり、今回も男子の部には724名の参加がありました。加藤さんは見事その



頂点となりました。「日頃から支えてくれる先生方や友人への感謝を込めて引きたい」と臨んだ舞台。普段とは違う60メートルという的までの距離や、大会の早い展開に戸惑いながらも決勝の舞台を勝ち抜き「成長の証を示すことができて嬉しい」と語りました。

輝かしい成績を裏付けるのは、コツコツ積み上げた日々の鍛錬。週4日の全体練習はもちろん、僅かな隙間時間に1射でも2射でも引こうと、毎日練習場へ足を運んで重ねた個人練習が、短時間で集中を求められる今回の大会に活かされたそうです。

将来は教員を目指し、日々勉強に励む加藤さん。一時期は弓が引けなくなるほどのイップスに悩まれた時期もあったといいます。が、「そういう苦しい経験があるからこそ、失敗したり悩んだりしている子どもたちに寄り添える教員になれる」と前向きに捉えています。将来的には弓道の指導にも携わり、「時間を犠牲に指導してくださった恩師をはじめ、地元へ恩返しをしていけたら」と、将来に向けて努力を続ける加藤さんの今後の活躍に期待です。

中国四国合同産業 衛生学会で 優秀演題賞を受賞

2024年11月23・24日に岡山大学鹿田キャンパスで開催された第68回中国四国合同産業衛生学会において、人間社会科学研究科健康・行動科学コース1年の中村優斗さん（指導教員：山崎雅之教授）が口頭発表を行い、優秀演題賞を受賞しました。

中村さんは、遺伝子多型と生活習慣に関する研究を進めており、今大会では「糖代謝を中心としたメタボリックシンドロームへのSEC16B遺伝子の影響」について発表しました。



「優秀演題賞」は、口頭発表者の中から特に優秀な研究に贈られる賞で、中村さんは全受賞者3名のうちの1名に選ばれました。

「学生と共に創る！大田市 観光プランディスカッション」 を開催

12月14日、島根県立男女共同参画センターあすてらすで、特別副専攻「観光実践」の成果報告会が開催されました。受講生は、日本遺産「石見の火山が伝える悠久の歴史」をテーマに、8月のフィールドワークを基に観光振興のアイデアを発表。「大田市観光プランディスカッション」では、観光関係者や島根県立大学の学生、またたび講座の受講生と共に、地域経済活性化について議論しました。発表内容は『島根観光百科事典』に収録予定で、実現に向けた意見交換も実施。受講生からは、地域理解が深まり、観光への関心が高まったとの感想が寄せられました。





Let's 学生広報サポーター

1月23日(木)より松江キャンパスの生協ショップにて販売を開始した「島大生×姫ラボ石鹸」。
その外箱デザインの考案と、販売ブースのセッティングに取り組んだ地域人材育成コース生の4人と、
姫ラボ石鹸を展開する玉造温泉まちデコの方々にお話を伺いました。



(取材・学生広報サポーター R.I. / 撮影・企画広報課)

【学生取材】島大生 × 姫ラボのコラボ！新たな島大グッズ誕生



今回作成した姫ラボ石鹸の外箱デザインのイラスト原案を作成した山田悠人さんと、活動初日に姫ラボの店舗で一緒に石鹸の泡を手にした三木和歌さん。「姫ラボ石鹸の泡のボリュームが印象的だったので、この純粋な感動を元にデザインしました」と思いを語ってくれました。また、販売ブースには赤色と青色の「のれん」を設置。「この石鹸は、玉造温泉の水を使ったコスメなので、温泉要素を交えつつ、白を基調とした外箱デザインが目立つよう工夫しました」と話してくれました。

実は、コース生たちは、外箱デザインを作成するために、プロのデザイナーから直接、デザインの基礎についての講義を受講。外箱デザインのコンセプトの設定やデザインへの落とし込み方については、繰り返し指導いただいたそうです。山田さんは「デザイン作成での試行錯誤の体験から思いをデザインに表現する大変さを知ることができました」と答えました。



また、遠藤紗良さんは、「自分たちでパッケージを考え、実際に販売するマーケティングの流れを大学で経験できたことは貴重な機会でした。今回の外箱デザインに込めたコンセプトを楽しんでもらえたら嬉しいです」と話し、藤田綾乃さんは「商品としての質が高く、島大生にも使ってもらいたいです」と力強く語ってくれました。



コラボレーションをされた玉造温泉まちデコの荒銀祐紀さんと正木那央さんにもお話を伺いました。今回の島大オリジナルグッズの作成にあたって、「パッケージを変えようという初めての試みに対して、最初は不安な気持ちもありましたが、学生さんからアイデアをもらうにつれて、新鮮な刺激を受けながら楽しく作成できました」と話してくれました。

最後に、コース生と玉造温泉まちデコの方から買われる方に向けて、「島大生は県外出身の方も多く、玉造温泉をはじめとする玉湯地域の魅力を知る機会が少ないと思います。この石鹸を通して、地域の持つ良さに気づききっかけになると嬉しいです」と期待を寄せていました。

SUPPORTERS VOICE

新たな価値を一緒につくる、島根大学の共創パートナー

株式会社
出雲村田製作所

代表取締役社長 谷口育男さん



ネーミングライツ制度を通じた大学貢献

島根大学は、教育研究環境の充実、産学官連携の促進、そして地域社会への貢献を目的に、令和6年度から大学施設等へのネーミングライツ(命名権)制度を導入しました。この制度に最初に賛同したのが、セラミックコンデンサの生産で世界最大級の規模を誇る株式会社出雲村田製作所(本社：島根県出雲市)です。

同社は昨年12月、島根大学と第1号となるパートナー契約を締結しました。これにより、松江キャンパス附属図書館1階のラーニングcommons(交流型学習スペース)は「muRata Learning Commons(ムラタ・ラーニングcommons)」と命名されました。代表取締役の谷口育男さんは、「単に名前を付けるだけではなく、創業者の精神に基づき、地域社会の発展につながる事業として取り組めると感じました」と、その経緯を語っています。

また、谷口さんは「この制度を通じて企業の認知度向上を図るとともに、製造業の仕事を知ってもらい、将来のキャリア選択肢の一つとして意識してもらおうきっかけとなれば」と語り、製造業の発展・継続への期待を寄せています。

ムラタ・ラーニングcommonsの開設に際

しては、島根大学の卒業生を含む若手社員が中心となり、アイデアを出し合いました。その結果、「コンデンサ砂時計」という、同社が手掛ける技術を分かりやすく伝えるコンテンツが設置されました。さらに、「出雲村田日常すごろく」や、現在勤務している卒業生のコメントの紹介もあり、学生たちが製造業に関心を持つきっかけとなるよう工夫された場となっています。



従来より、個人学習やグループ学習のスペースとして学生たちに親しまれてきたラーニングcommons。今回のネーミングライツ制度の導入により、新たなコンテンツが加わることで、国内外から集まる学生たちがより広くコミュニケーションやディスカッションを行い、多様な価値観や発想力を育む場としての役割が期待されています。

産学官連携はオープンイノベーション推進本部へ！

＼ 気軽にご相談ください！ ＼

連絡先 オープンイノベーション推進本部
<https://www.openinnov.shimane-u.ac.jp/>

オープンイノベーション推進本部は、産学官連携の推進を図り学内外のネットワークを強化し、産学官連携の共同研究を通じてその研究成果を社会に還元し、地域産業の振興やイノベーションを創出する皆様の真の共創パートナーを目指します。



オープンイノベーション推進本部長 亀井 淳志

希望に満ちた未来ある
若人を応援します

We are
株式会社ソフト開発

信頼と実績・高品位ソフトウェア開発

島大出身の社長
以下OB/OGが数名、
一緒に働く仲間 募集中です!

スキャンして応募

JOIN US

東京本社：東京都町田市鶴間 TEL:042-795-7613

広島オフィス：広島市安佐南区西原 TEL:082-850-0877

ディーゼルエンジン用部品／産業機械用部品
鋳物業材～加工完成・組立～生産

テクノロジーと信頼で『夢・希望・未来』を創出する

ヤンマーキャステクノ株式会社

(本社・松江事業部) 千690-0025 島根県松江市八幡町960番地 ☎0852-37-1355
(甲賀事業部・鋳造技術センター) 千520-3233 滋賀県湖南市柑子袋360番地 ☎0748-72-0800

<https://www.yanmar.com/jp/about/company/ycat/>

～よりよい環境づくりを目指して～

株式会社コスモ建設コンサルタント

土木設計・測量・地質調査・補償コンサルタント

島根県出雲市斐川町莊原 2226-1
<https://cosmoc.jp/>
☎0853-72-1171

帝人コードレ株式会社

島根から世界へ、未来につなぐ技術力

人工皮革・フィルムの開発 製造 販売

島根工場 大田市長久町長久1446
大阪本社 大阪市北区中之島3-2-4

島根大学生生活協同組合は
島大生の住生活をサポートしています!

★毎年約700人の方が生協で部屋を決めています。
★管理物件を募集しています。ご相談ください。

学生向管理物件 登録部屋数 約**1,600室**

■管理物件の取り扱いお問い合わせは

島根大学生生活協同組合
〒690-8504 島根県松江市西川津町1060 Tel0852-20-0881
<https://www.shimadaai.coop/>

この看板が
目印です!

島根大学生生活協同組合
☎0852-20-0881
管理

うまいもんなら、なんでもマルイ

24時間
営業

マルイ黒田店

スタッフ募集中!
(正社員・パート・アルバイト)

<https://www.maruilife.co.jp>

山陰両県に19店舗のスーパーマーケット「ホック」を展開
「美と健康」をテーマに付加価値のある商品を提案、提供しております

島根大学卒業生の皆さんも多数活躍中!
食に興味のある方、当社と一緒に輝きませんか?

株式会社フーズマーケットホック

お問い合わせ 〒692-0001 島根県安来市赤江町1448-1 TEL:0854-28-8340 FAX:0854-28-7419

**Think regional
act regional**

地域を「共創」し、地域を「共創」する。

セーラー広告株式会社 <https://www.saylor.co.jp/>
岡山本社 / 岡山県岡山市北区東古松南町6番地29
TEL(086)231-2301

木造建築に欠かせない **合板**の製造・販売で国内販売シェア約30%!!

人と木をむすぶ
日新グループ

松江・浜田・境港から
徳島、三重に広がり
そして世界に向かう
日本一の合板メーカーを
目指しています。

WEBサイトはこちら
<https://www.nisshin.gr.jp>

島根大学卒業生も多数活躍中! 詳しくはInstagramをチェック!!

ーあしたへ、未来へー
地域創造企業

おかげさまで40周年
SHOWA

私達は、ものづくり支援で、未来の扉を開く
あなたのベストパートナーとして一緒に輝きます。
<http://www.showa00.co.jp/>

建設コンサルタント・補償コンサルタント・測量・地盤調査・地盤改良工事

あしたへ 未来へ
求人のお問い合わせは

株式会社 昭和測量設計事務所

営業エリア：島根、広島、山口、鳥取、岡山
【本 社】島根県益田市高津四丁目14番6号 TEL (0856) 23-6728 FAX 23-6573
【事 務 所】浜田・松江

日本システム開発

先進の IT 技術で
未来を拓く。

エンタープライズ系・組込み系のソフトウェア受託開発を
メインに、研究開発にも積極的に取り組んでいます。

日本システム開発株式会社 本社：名古屋 事業所：東京、松江
〒690-0003 松江市朝日町480番地8 松江SKYビル3F
TEL:0852-28-7175 FAX:0852-28-7233 HP: <https://www.nskint.co.jp/>

島根大学支援基金より

島根大学支援基金では、皆さまからいただいたご寄附を地域や世界で活躍する人材育成のために活用させていただいております。何卒ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

物価高で苦しむ学生を支援する「100円ごはん」を販売しました。

円安、物価高騰、令和の米騒動…これらの影響により学食も値上げせざるを得ない状況となっています。学食の値上げは学生たちの食生活に大きな影響を及ぼします。こうした状況を受け、学生の経済支援や食生活改善を目的に昨年11月、今回で3回目となる100円ごはんを販売しました。この取組は、通常550円の学食のメニューに対し、皆さまからいただいたご寄附である支援基金から450円を補助し、学生に100円で販売するものです。皆さまのご支援により、延べ6,098名の学生に「100円ごはん」を販売することができました。ご支援いただきありがとうございました。学生からも感謝の声が届いております。

支援基金についての詳細は支援基金HPをご覧ください。支援基金パンフレットをご請求ください。支援基金へご支援いただける場合は支援基金HPから手続きいただくか、支援基金パンフレットによりお願いいたします。なお、パンフレットはお電話でのご請求も承っております。

島根大学総務課支援基金担当
TEL 0852-32-6015
Mail sienkk@office.shimane-u.ac.jp
<https://www.fund.shimane-u.ac.jp/>

支援基金HP

【学生からの感謝の声】
100円ごはんのおかげで腹いっぱいご飯を食べることが出来ました。ありがとうございました。野菜不足だったりバランスよりもお腹に入れることが優先になったりしていたので食堂できちんと食べれて本当にありがたかったです。
(医学部1年生より)

島根大学支援基金 寄附者一覧 島根大学支援基金は皆さまからのご寄附を学生支援などに活用させていただく仕組みです。パンフレットは上記ホームページにも掲載しておりますが郵送もいたしますのでお問い合わせください。

法人からのご寄附(単位)	一般財団法人古川育英会	株式会社Alumnote	株式会社鶴原農園	株式会社松文オフテック	株式会社ミツク	協同組合島根県農工会	島根医科大学19期卒業生	島根大学法文学部同窓会	
個人からのご寄附(単位)	青柳和仁 石川梨望 石谷正守 伊藤真一 今川博子 岩本秀俊 上田 寛 江口博晴 堀谷 啓 大島和典 大畑俊正 柿木真也 鹿見島敬 勝部毅弘 金森朱香	金山富美 川村元汰 菅 福朗 菅野貴浩 菊岡祐一 岸加奈子 北川 力 北川通喜 吉川通彦 國岡厚志 熊澤 修 栗原昌子 小谷美保 小橋達也 近藤雄介 齋藤みどり 酒井尚子 坂井美海	坂本英明 佐藤和宣 佐藤利夫 塩月孝博 洪山和彦 清水 信 杉山貴光 陶山 登 千家充伸 高崎 直 多田寛子 谷本久哉 種田雅仁 千葉愛子 千葉新八朗 出川芳明 豊澤賢明 豊澤祐子	内藤富夫 中川恭子 中島寿子 永田まち子 中村新一郎 中村喜子 西田典教 野秋真弘 野田辰明 野津萬知子 橋本宏子 蓮岡法峰 林 浩喜 原田恵子 平田愛子 廣兼 敦 福田香子 福田健也	福庭栄治 古野 毅 増永二之 松浦修一 松崎 貴 三加茂邦志 三澤欣子 村松文治 望月宣武 森山 博 森山麻子 柳澤正富 山崎健太郎 山本則文 葉 文昌 吉田 孝 吉武祥子 吉見 颯	柳幸大和 渡邊正人 渡邊美雪			

※(単位)令和6年9月1日～令和6年12月31日に5千円以上のご寄附をいただいた皆さま(50音順、敬称略) ※(継続)令和6年度に5千円以上のご寄附をいただいた皆さまのご芳名は、令和7年7月号に掲載させていただきます。
※ご寄附をいただいた際に「氏名の公表を承諾しない」とされた方及び記載のなかった方は掲載しておりません。

編集後記

卒業制作の時期に、京都芸術大学に伺いました。現代的な建物の中で、腕まくりをした学生たちが制作に没頭していました。今回の鼎談で「芸術」とは、美術館に飾られた作品や、メッセージ性をもって社会に訴えかけるようなオブジェだけではなく、「美しさ」「心地よさ」「たたずまい」をもったものとして生活の中にも存在する、ということ学びました。「機能」と「芸術」を掛け合わせた新たな視点をもったとき、既存の商品やサービスのあり方は、どう映っていくでしょうか。今後、両大学の交流が進んだときに学生たちから何が生まれるかを考えると私はワクワクしてきます。日常を暮らしやすく、生活に彩りを与え、心が軽やかになる、そんな芸術の力が社会にあふれていく未来を想像した1日でした。

読者の声

島根県松江市50代女性／材料研究に力を入れていることを「広報しまだい」で初めて知りました。島根大学が材料科学・工学分野でのリーディングユニバーシティになることに期待しています。島根県出雲市70代女性／今、入院中ですが谷口さんにお世話になっています。とても誠実で患者によりそって頂き感謝しておりましたところ、この冊子を見つけ、びっくりすると共に「志」をお持ちのことに改めて感心致しました。

島根県浜田市60代男性／「活躍する卒業生」の頁をもっと増やしてほしい。入学を希望する学生のはげみになると思います。よろしく願いいたします。

島根県大田市20代男性／県内各自治体、市町村と島大との関係等、連携した活動などあれば紹介してほしいです。

奈良県奈良市80代男性／裏表紙の総合理工学部が1学科へと改組されることに衝撃を受けました。大変重要な取組みと思います。成功を祈っています。